

令和2年度子ども・子育て支援推進調査事業

<調査研究報告書タイトル>

保育士養成施設における保育士の魅力向上に関する調査研究

<実施主体名>

一般社団法人全国保育士養成協議会

<調査研究の概要>

1 研究の目的

本研究の目的は、指定保育士養成施設（以下、本章においては、養成校）において、保育士を目指す学生が増えるよう、効果的な保育実習の方法やカリキュラムのあり方、及び、保育の魅力向上に向けた取組等について明らかにし、効果的な事例を収集、提供することである。

2 調査の概要

本調査研究では、①アンケート調査と②ヒアリング調査を実施した。

①アンケート調査は、養成校における保育の魅力向上に向けた取組等について基礎資料を得るために、平成31年4月1日時点で指定保育士養成施設として認可を受けている全養成校679施設を対象として実施した。保育の魅力向上に資するキャリア支援、カリキュラム、保育現場・自治体・保育団体等との連携、中高生向けの取組等について尋ねた。

②ヒアリング調査は、養成校における、保育士の魅力向上に向けた効果的または望ましいと考えられる取組について明らかにするために実施した。カリキュラム、実習指導、教育課程外の活動、保育現場・自治体・保育団体等との連携、中高生に向けた取組、就職支援の取組等について尋ねた。

3 調査結果の概要

アンケート調査では、養成校教員が、子どもとの触れ合いややりがい、社会的認知や遭遇、研修機会を重要だと考えていることがわかった。またカリキュラムにおいては「保育実践演習」などを重視しつつ、保育士との触れ合いや現場に出向くなど外部との連携を図っていることがうかがわれた。卒業生の就業継続へのサポート等はなされているが、個々の教員に委ねられている傾向にある。卒業生の就業状況の把握や復職へのサポート等は今後取り組むべき課題の一つである。

ヒアリング調査では、調査対象校のすべてが「保育士の魅力」を視野に入れた養成を行っていることがわかる。また保育が社会的に重要な仕事であり、その重要性が保育士の魅力」と捉えていることがわかった。調査対象校では学生の意欲を支えるなど保育実習への工夫が多くみられた。また、保育に関するボランティアやサークル活動など学生の主体的活動が保育への関心や学ぶ意欲につながっていることが示唆された。地域における行政等との連携も求められる。

以上より、①保育士の魅力が、質の高い保育に伴うということを十分に踏まえた取組みが求められる。次に、②養成校を開かれたシステムにしていくこと（ヨコ展開）が有効であることが示唆された。さらに、③中学・高校～養成校～保育現場への就業とそこでの成長という、保育士のキャリア発達を見通した、保育職への導入から養成、採用、研修に至る筋道を踏まえた諸活動の展開（タテ展開）が望まれる。それらは保育の質にもつながる。

4 ハンドブックの作成

本研究の成果を各養成校で活用してもらうために、ハンドブック『Q&A から学ぶ好事例：保育士の魅力向上のために養成校の取組』を作成した。